地域で暮らす外国の人の相棒になろう

# 今日から私も
# バディさん

地域でつながる、未来へつなげる

# 入門編

# 今日から私もバディさん　入門編　目次

1. はじめに
2. バディのはじまり
3. バディとは　　多種多様な人々と信頼関係を築くこと
4. 現在のバディのかたち
5. 外国人住民を知ろう　査証や制度、どんな外国の人が生活をしているか
6. バディをするために知っていてほしいこと　地域で何が起こっているか
7. 人を「つなぐ」、人と「つながる」。バディのまとめ
8. 人を「つなげる」バディシステム

## 高浜市多文化共生コミュニティセンター
## 夏休み募集　多文化共生社会の実現ポスター　令和３年度　最優秀作品

愛知県高浜小学校４年生

伊庭　杏さん

多種多様な人々が同じ地球の中で共生をしている様子がイキイキと描かれています。

地域住民と外国人住民が一票ずつを投じて、最優秀作品として選ばれました。

# 1．はじめに

バディは、英語の BUDDY で直訳すると「相棒」「友だち」「仲間」。地域に来た、外国人技能実習生のみなさんにちょっとしたおせっかいをして日本の生活になじんでもらおうと始めました。始めてみたら、私たち日本人も知らなかったそれぞれの国の人たちの文化がとても楽しく、誰にでもできる取り組みであることが解りました。そして国籍も年齢も性別も関係ない、多種多様な人々がごちゃまぜで集まる場ができました。誰もが笑顔でつながりはじめました。新型コロナウィルス感染拡大の前のお話しです。

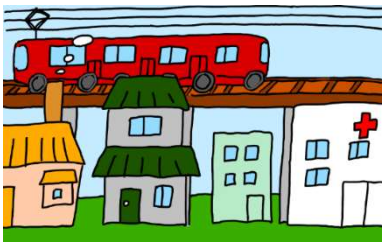
新型コロナウィルス感染拡大で、様々な制限がある中でも、バディはとても大きな力を発揮しています。感染拡大の影響でたくさんの人が集まることはなかなかできませんが、個別にそして SNS でつながりを続けています。ゆるやかにつながっているため、小さい困りごとはもちろん、少し大きな困りごとでもすぐにバディとしてかかわることができます。南米からの日系人の方や、地域とのつながりが少なかった、東南アジアからの方々とのつながりもできました。地域で共に暮らす仲間とのつながりは、今後の多文化共生の鍵になると思っています。

バディは、外国の人を助けるだけのものではありません。日本人同士も同じことですし、外国の人も他の外国の人や、日本人を助けてくれます。バディは、人と人が仲間として支え合う関係とその関係作りをいいます。そこには、上も下もありません。あるのは対等な関係だけです。人とのつながりが視野を広げ、多種多様な人たちと信頼関係を構築していくことこそが人間力を高めることになります。すなわちそれは「現代を生きる力」だと思います。

昨今、孤独、孤立が問題になっています。バディはこうした問題をも解決すると言っても過言ではありません。

私が多文化共生の一歩をふみ出してから、30 年が経ちました。様々な外国の人たちとのバディが私を成長させてくれました。本冊子は、そんな私が実践してきた**「バディ」**について書いたものです。まだまだ明文化できない箇所もあり、伝わりにくいところもあるかもしれませんが、どうぞ最後までお付き合いください。また、バディの基礎的な情報については、「今日から私もバディさん」（リンク先）を先にお読みいただくと、より理解が深まりますのでご参照ください。

https://www.jica.go.jp/chubu/topics/2020/ku57pq00000mbsyv-att/ku57pq00000mbszn.pdf



## 2．バディのはじまり

### (1)外国の人がやってきた！

1990 年入管法の改正により、南米から日本にルーツのある人びと(日系人)が日本にやってきました。その頃の私は、看護師をしていました。虫垂炎で入院をしてきた日系ペルー人の患者さん。日本語はほとんどわからず、話すこともできず、痛みも苦痛も訴えることもできずにいました。食事がどれくらい摂れているのか、痛みはどれくらいあるのかなどを聞くために、私自身、彼らの母語であるスペイン語の単語を用いてコミュニケーションをとったり、イラストやひらがなローマ字 50 音表を作って話したりしました。私のバディはここからはじまりました。

私の住む、愛知県西三河地方は、自動車産業関連企業が多くあるため、2000 年代初頭には、南米から来た日系の方々がたくさんいました。保育園や小学校にも必ず数名の外国の子どもたちがいました。そういった関係から、家でバーベキューをするから遊びに来ない？などと誘われることがありました。休日にみんなで集まって楽しそうに過ごす彼ら。肉と一緒にパイナップルを焼いたり、見たことがないウィンナーを焼いたり。日本の地域に居ながらにして南米の家に招かれた感じがしました。

このようなつながりの中、仕事や引越し、子どもの進学のことなどを相談されるようになりました。その頃の私は「市役所に行くといいよ」と外国の人たちのバディをしていました。

### (2)経済連携協定(EPA)看護師・介護福祉士候補者との出会い

2008 年、日本とインドネシアは経済連携協定を締結しました。これにより、貿易及び投資の自由化及び円滑化、人の移動、エネルギー及び鉱物資源、知的財産、ビジネス環境の整備等の幅広い分野での協力が可能となりました。この協定により、インドネシアの看護師資格を持つインドネシア看護師が、日本の医療福祉現場で就労をしながら、日本の看護師や介護福祉士の資格を取るために来日しました。自国で看護師の資格を持つ優秀な人々ですが、日本の看護師や介護福祉士の資格がなかなか取得できないということでメディアにも大きく取り上げられました。

私は彼らと一緒に看護師国家試験の学習のお手伝いをしました。学習だけではなく、彼らと一緒にご飯を食べたり、買い物に行ったりしながら交流を深めていきました。その時に一緒に学習をした人たちは看護師や准看護師の資格を取得して、国内外で活躍をしています。彼らとのかかわりから、外国の人たちは、私たち日本人と話をしたり、食事をしたりしながら、仲良くなることを望んでいることがわかりました。

### （3）技能実習生を地域で支えあう

経済連携協定で来日経験のあるインドネシアの友人が、「インドネシアの若者には日本に行きたい人がたくさんいるが自分は日本滞在時に生活面で色々苦労した」と話してくれました。時同じくして、日本に外国人技能実習の受入に関する法律が制定され、介護分野での技能実習生の受入れが開始されました。私は友人の話から、介護分野での技能実習生の受入れにバディを導入しようと考えました。

2019 年 4 月、私が所属する法人の第 1 期生になる介護技能実習生 5 名が入国してきました。介護は生活の延長線上にあります。このため、介護を受ける日本の高齢者の生活様式や文化を知ることは、介護分野で技能実習をする人たちにとって大切だと考えました。こうした日本の生活や文化を地域のバディさん[1]から教えてもらおうと考え、地域の様々な人たちにお願いをしました。ごみの捨て方、ふすまの開け閉め、布団の上げ下ろし、玄関で靴を脱ぐ、靴をそろえるなど日常の細かい生活様式を日本での生活に取り入れながら教えてもらうようにしました。町内の活動などを通して日本のルールを学べるようにバディさんに一緒にまちに連れ出してもらうようにお願いをしました。こうして、小学生のお子さんがいるパパやママたち、地域の少し年配のお母さんたちなどがバディになってくれました。最初は、バディのビジョンをお話しして賛同してくれた方たちがバディになり、その輪は今も徐々に広がっています。

### （4）うまくいかなかったことも

地域のバディさんたちは、技能実習生に地域のことを知ってもらいたいと思い、様々なところへ一緒に出かけたり、日本の食べ物を差し入れしたりしてくれました。日本の生活を厳しく教えてくれるバディさんもいました。しばらくすると、口うるさく教えてくれるバディさんに対して、外国の人たちが話を聞かないそぶりが見られるようになりました。その態度にまた怒るバディさんの姿もありました。食べ物の差し入れをいつも持って来てくれるバディさんもいましたが、口に合わないと差し入れを残して、冷蔵庫に放置されることもしばしばあります。それを見て悲しがるバディさんもいました。また別のバディさんは、差し入れの食べ物に味が変わるくらい唐辛子をかける姿に「私の料理ってそんなにまずいかしら？」と落ち込む人もいました。「あの子たちのことを思ってこんなにしたのに」「あの子たちのためなのに」そんな声が聞かれました。

このように最初はバディさんに、期待した反応との違いや見返りが感じられないことに落胆している様子が見られましたが、バディさんも相手の文化や習慣や、対等な立場であることを理解していくにつれ、このようなすれ違いも減っていきました。

---

[1] 「バディさん」とは、地域でバディの取組みを実践されている方々。まだほとんどが日本人の方ですが、外国にルーツを持つバディさんも増えていくことが期待されます。

### (5)1 対1でのバディの難しさ

また 1 対1でのバディによる弊害もありました。例えば、あのバディさんはいつも来てくれるのに、このバディさんはほとんど来てくれない。私のバディさんは全然話をしてくれない。私のバディさんはいつも来てくれるけど、たまにはひとりでいたいのよね・・・そんな声が実習生からあがるようになりました。1 対1でのバディの難しさがありました。

### (6)ゆるやかにつながる

数週間の 1 対1でのバディ活動を見て、技能実習生のバディは1対1ではない方がよいのではないかと思いました。このため、バディさんたちに、自分の担当の技能実習生だけではなく、いろいろな人と関わってほしいとお願いをしました。例えば、散歩に行くとき、買い物に行くときに、自分のペアの実習生だけでなく、他の技能実習生にも声をかけてほしいとお願いをしました。そして、「～～～でなければならない」「～～～してほしい」「～～～のためなのよ」といった「強制」をしないことをお願いしました。「強制」になると、バディである日本人もバディを受ける外国の人も楽しくありません。そして、絶対に無理をしないでとお願いをするようにしました。バディさんには「ゆるやかにつながる」ことを意識して行ってもらうようになりました。

### (7)好きな時に、好きなだけ、無理なく続ける

このような試行錯誤を通じて、「好きな時に、好きなだけ、無理なく続ける」ことをバディの基本の「き」と考えました。初期からバディをしている人たちの半数以上が今でもバディを続けてくれています。地域で声をかけ続けてくれる人、イベントで一緒にバディをしてくれる人、日常で外国の人をサポートしてくれるバディさん、様々です。一様に言えることは、みなさん楽しんでバディをしてくれていることです。

技能実習生の受入れで始めたバディですが、次第に地域の人たちにも認知されはじめました。「一緒に地域のお祭りに参加して」などという声があがるようになりました。地域で昔から開催されている花の塔（お釈迦様のお祭り）や盆踊り大会でもインドネシアのダンスを一緒に踊ろうということになり、盆踊りの練習会から参加するようになりました。地域の方々は企画から当日の運営まで一緒に相談してくれました。地域の外国の方々にも声をかけ、みんなで浴衣を着て盆踊り大会に参加をしました。それまでつながりのなかった地域に住む外国人住民の方たちとも知り合いになり、その後、彼らとも交流をするようになりました。

# 3．バディとは

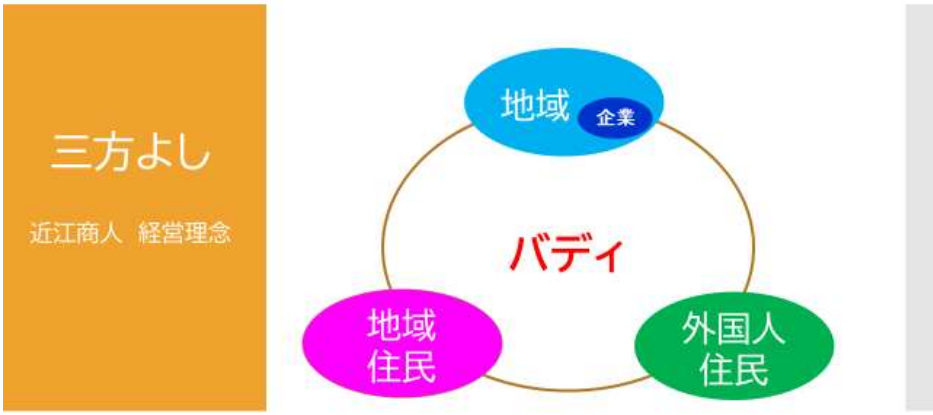
## (1)バディはマインド

「バディってなに？」と聞かれることが多くあります。バディは方法ではなく、マインド(こころ)だと私たちはお伝えをしています。バディのマインドの一番大切なことは「私だったらどうだろう」と想いをめぐらすこころ。みなさんが、知らないまちで困っているときに優しく笑顔で声をかけられたらうれしいと思います。「おはよう」と日本語で話しかけられたら、ほっとすると思います。自分がしてもらってうれしいことは相手もうれしいものです。

わがこと、じぶんごととして考える。これがバディのマインドです。このマインドで、外国の人にまちで会ったらあいさつをする、困っているときは「何か困っていますか？」と聞く、それがバディなのです。

## (2)三方よしのバディ

近江商人の経営理念の「三方よし」。人々の信頼を得るために、大切な考えとして「売り手」と「買い手」がともに満足し、さらに「社会貢献」もできるのが良い商売であるという考えです。バディは、地域住民、外国人住民も満足し、そして地域社会が活性化する「三方よし」だと私は考えています。




## (3)なぜ信頼関係を作るのか

バディは外国の人から信頼を得るためのツール(道具)であると私は思っています。なぜ信頼関係が必要なのでしょうか。みなさんは、今日初めて会った人に、親密な相談をするでしょうか。恋愛相談やお金の話、仕事のトラブルなどの話はできませんね。日常は、小さなことの積み重ねです。一緒に歩いている人が転んだら助けます。そして、怪我をしていないか心配をします。郵便や宅配の再配達の方法がわからない時は、一緒に再配達の手続きをする、病気の時は病院を探したり、

通院の方法を教える。日本語の手紙が読めなければ一緒に読むなど、こうした日常の小さな困りごとをバディとしてお手伝いをします。そうすることで、信頼関係をひとつずつ築いていきます。

外国の人たちがこうした日常のちょっとした困りごとを相談できる場所は極端に少ないのが現状です。一見、たわいもないことでも、つながっていることで「大事（おおごと）」にならずに済むことがあります。些細な相談ができる関係でなければ、信頼して大きな相談をすることはできません。バディとしてつながることは、地域におけるセーフティネットになるのです。

### （4）希薄した地域社会の触媒

バディは、多種多様な人々とつながっていくことが目的であるとお話しをしました。外国の人たちのサポートをするという切り口ではありますが、地域に住む老若男女問わず、国籍問わず様々な人とつながることができます。

バディさんの子どもたちが、外国の人たちに地域の文化を教える、外国の人たちは、私たちに、それぞれの文化や生活を教えてくれる。地域の高齢の方が子どもや外国の人たちに、野菜の育て方を教えてくれる、地域のお母さんたちが、日本の料理をいろいろな人に教える。バディは双方向、そして多方向につながり、地域をつないでいきます。希薄した地域社会の触媒となっていきます。

### （5）バディは、自分で選ぶ選択縁[2]

「血縁」「地縁」「社縁」のようななかなか切れない縁とは違い、バディは自分で選ぶ「選択縁」です。自分から一歩寄り添うバディ。新たなつながりができていきます。

[2] 社会学者である上野千鶴子さんが提唱する「選択縁」は脱血縁・脱地縁・脱社縁の新しい人間関係のつながりのこと

## (6)多文化共生社会には楽しいことがたくさん

技能実習生の相棒となって、日常のサポートをしようとはじめたバディですが、実は私たち日本人がバディをすることによって、とても楽しく、そして満たされることが多くあることがわかりました。外国の人々は私たちと違う文化を持っています。交流していくことで私たちの知的好奇心が刺激されます。下の写真は、中国から来たＫさんが、皮から作る手作り餃子の作り方を教えてくれた時のものです。みんな笑顔が自然にこぼれます。

今までの生活と違い、国を超え、年齢を超え、性別も超えたつながりができます。今まで感じたことがない感情、新たな経験、そして明るい笑顔があふれてきます。「人生にもっと楽しさを感じたい」そんな人もぜひバディを体験してみてください。すべての人に今までと違う新しい世界が開けますよ。

中国人Ｋさんの手作り餃子教室

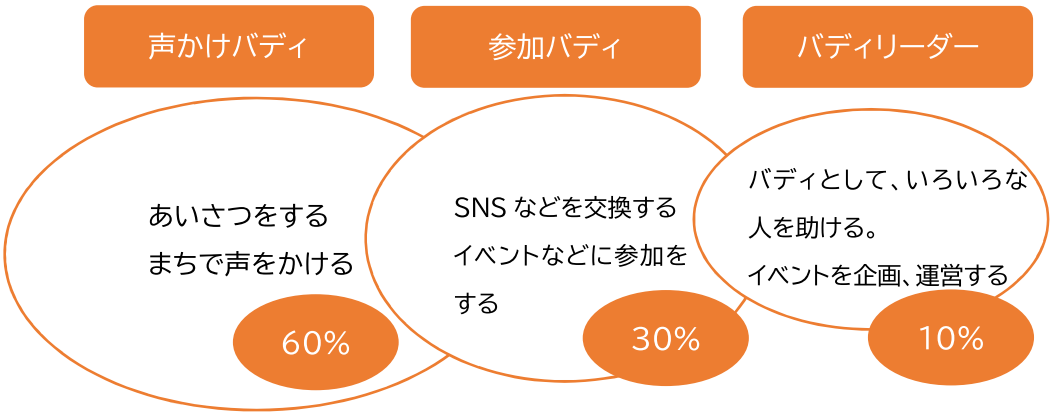
インドネシア料理「ミーゴレン」
食は知的好奇心をくすぐります

# 4．現在のバディのかたち

私たちの周りには、100 名ほどのバディさんがいらっしゃいます。バディさんには、日本人もいますし、地域のいろいろな外国の人たちも含まれます。みなさん、自分にあったバディを選び、無理なくバディをしています。

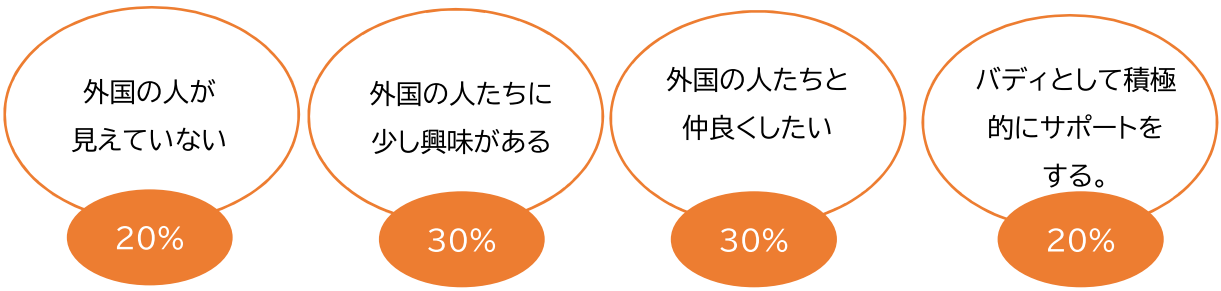
## (1) いろいろなバディのかたち

バディにもいろいろなかたちがあります。まちで声をかけるだけの「声かけバディ」さん、SNS やイベントで外国の方のサポートをする参加バディさん、そして、バディとして様々な活動をしたり、相談に乗ったり、イベントを企画・運営をするバディリーダーさん。それぞれ自分のできる範囲で無理なくバディをされています。




## (2) 日本人のどれくらいが外国の人を意識している？

地域で外国の人たちが増えていますが、地域住民のどれくらいの人たちがそのことを意識しているでしょうか？地域に住む日本人の中の 20%の人たちは、バディの必要性を説明すると一緒に活動をしてくれる仲間になってくれます。30%の人たちは、集まる場所やイベントがあると参加してくれる人たちです。私たちは、外国の人たちに少し興味があると感じている人たちをバディとして、声をかけてくれる仲間になってくれるといいなぁと思っています。



### (3)バディとしてどこまでやったらいいの？

(1)で書きましたが、バディをするかたちは様々です。まちで声をかける「声かけバディ」さんもいれば、「バディリーダー」として、課題や問題を解決するために、様々なところへつなぐ人もいます。LINE や FACEBOOK やインスタグラムなどの SNS で繋がるバディさんもいますし、外国の人達が集まる場を活用してバディをする人もいます。大切なことは、「無理なく、自分の好きなこと」でバディをすることです。無理に SNS でつながる必要はありません。

私たちのところには、たくさんの外国の人たちが訪れます。いろいろな相談の中、バディとしてできることが限られている場合もあります。でも基本的には、相手の立場になって話を聞く。話を聞くことにより、私たちで解決できることは解決し、専門の窓口があればそこにつなぎます。私たちは「適切な場」につなぐこともとても大切なことだと思っています。

多種多様な人々が集まって、地域を散策。
地域について学んできた子どもたちが
外国の人たちに自分の町の魅力を伝えます。
いつも住んでいるまちを一緒に回る事で
関係が深まります。
（2022 年 3 月 5 日スタンプラリーの様子）

# 5．外国人住民を知ろう

在留資格や制度、どんな外国の人が生活をしているかを見ていきましょう。

**(1)外国の人は「デカセギ労働者」ではない**

1990 年に入管法が改正されました。それにより、日系人などの日本にルーツのある外国籍の人たちが日本で就労することが可能となりました。当時それらの人々は、日本に来て仕事をすることを「デカセギ」といい、数年日本で働き帰国する人も多くいました。

しかし 2022 年現在ではどうでしょうか。すでに日系の方々が日本に来日して 30 年が経ちました。長く日本に住み、地に足をつけた生活をしている外国の人々もたくさんいます。多くの人たちは、豊かな生活を求めて日本に来ます。日本が大好きで、長く日本で生活をしたいとライフプランを立てています。単にお金を稼ぐために日本に住んでいるわけではないのです。

外国の人々は、会社で働き、私たちと同じように、税金も社会保険も納めています。インフラ整備も医療費負担も彼らは担っているのです。彼らが日本で働くことは、雇用している企業だけにメリットがあるわけではありません。私たちの暮らしの一部を支えてくれている仲間なのです。

**(2)在留資格と種類**

日本で仕事をして生活をするためには、在留資格が必要です。外国の人々は、何らかの在留資格を持って日本で生活をしています。図1で在留資格の一覧を示します。あなたの周りの外国の人はどの在留資格で日本の生活をされているでしょうか。

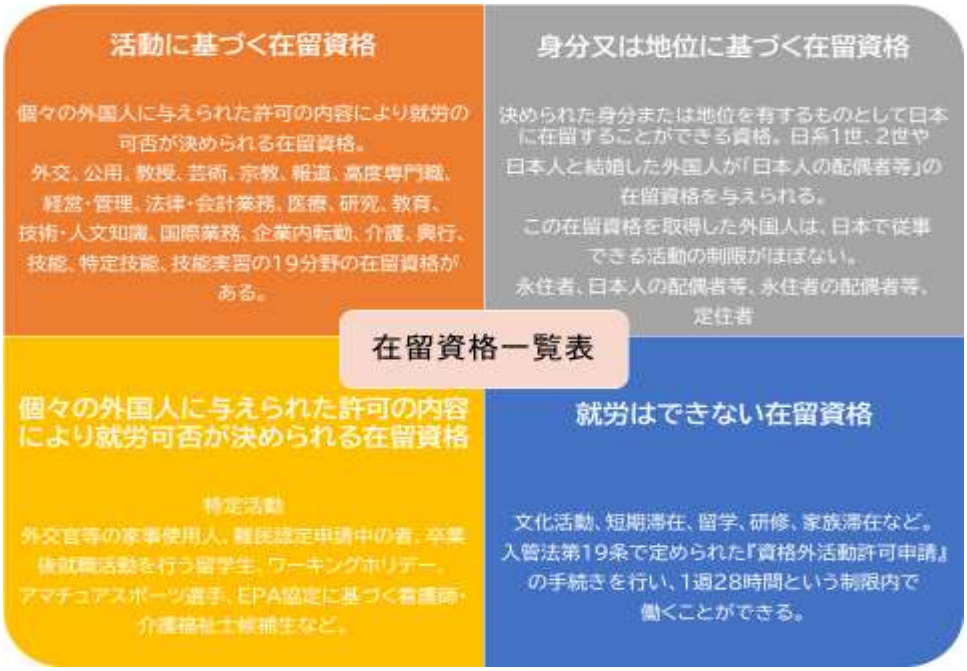



図1. 在留資格一覧（入国管理局ホームページより筆者作成）

### (3)近年の入国状況

2018 年 12 月に出入国管理及び難民認定法の改正が行われました。そこで新たな在留資格が新設されました。それまでは日本は外国人労働者の受け入れをしてきませんでしたが、新しい在留資格「特定技能」の新設により、在留期間に定めのない外国人労働者とその家族の受け入れが可能となりました。2016 年では約 210 万人であった在留外国人が 2020 年には約 288 万人と、5 年の間に約 70 万人もの外国の人が増えました。これからも日本は少子高齢化に伴う国内労働人口の不足により、更に多くの外国の方が必要不可欠となっていきます。

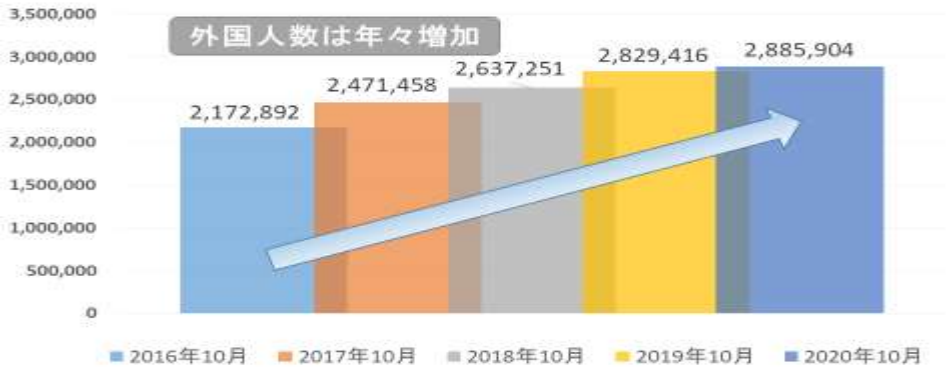



図2. 在留外国人数の推移 （出入国管理局統計より筆者作成）

### (4)昨今の在留外国人の状況

2021 年 6 月に発表された在留外国人統計(旧登録外国人統計)統計表によると、282 万 3565 人の外国の方が日本に在留しています。在留している国の TOP5を見てみましょう。

| 順位 | 国名 | 人数 | 在留外国人比 | 在留資格の特徴 |
|---|---|---|---|---|
| 1 位 | 中国 | 745,411 人 | 26.4% | 永住者が 4 割、ついで留学生が多い。 |
| 2 位 | ベトナム | 450,046 人 | 15.9% | 技能実習が 4 割を占める。技術・人文・国際ビザ、留学生で 3 割弱。 |
| 3 位 | 韓国 | 416,389 人 | 14.7% | 特別永住者[3]が 6.5 割 |
| 4 位 | フィリピン | 277,341 人 | 9.8% | 永住者 5 割、定住者 2 割 |
| 5 位 | ブラジル | 206,365 人 | 7.3% | 永住者、定住者で 9 割弱 |

昨今の在留外国人の増加は、技能実習生や留学生などの増加と言われています。新型コロナウィルス感染拡大の影響により、日本への入国ができず、母国で日本への入国を待っている待機中の技能実習生は 37 万人と言われています。

[3] 終戦前から日本国民として暮らしていた韓国・朝鮮人や台湾等の方で，平和条約の発効により日本国籍を離脱した方やその子孫に対する法的地位

## ６．バディをするために知っておいてほしいこと。地域で何が起きているか

日本人に限らず、日本に住む外国の人たちにもライフサイクルに合わせた課題があります。それぞれの国の生活や文化、社会保障の違いなどから、日本人では起こりにくい課題や問題が起こることもあります。ライフサイクルで起こりうる課題や問題を知っておくと、バディをしやすくなります。また、災害時や新型コロナワクチン予防接種の情報など、日本人にも解りにくいことは、外国の人たちにはもっと解らないということにも留意が必要です。

ライフイベント

妊娠の届出
母子手帳の交付
妊婦健診
乳幼児健診
予防接種

児童手当
保育園・幼稚園の入所

小学校入学
中学校入学
高校入学
大学入学

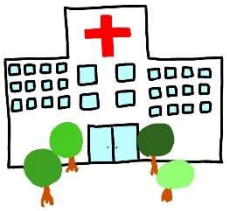
乳児期　学童期　思春期

### 外国の人のよくある悩み・状況

★病院への受診方法がわからない
★妊婦健診、乳児検診時に言葉が通じない
★日本で妊娠、出産をしていない場合は母子手帳を持っていない。
★母国と違う予防接種（追加接種の可能性）
★保育園に入所させず、自宅で保育をする。

★日本語での学習が難しい
★母語や母国の文化を学ぶ機会が少ない
★学習支援が必要な場合が多い
★進学時に必要な費用が払えない
★義務教育の途中や義務教育を修了した段階で海外より転校してきたため、進学先がないもしくは少ない

在留資格が関係する



税金

年金

保険

住まい
仕事
結婚
出産

病気
医療
介護

お葬式
お墓

成人期　壮年期　老年期

## 外国の人のよくある悩み・状況

★住居の賃貸契約が難しい
★転職をする場合、派遣などに頼ることが多いため、非常時に解雇されやすい
★結婚、出産の場合、母国への登録も必要。離婚や DV なども
★年金、税金の未払いのため、在留資格が更新されない場合も。
★病気になっても医療受診が難しい

★日本の医療制度への理解が乏しい
★大病の時に相談できる人が少ない
★宗教にあった、お葬式をしたい
★宗教にあったお墓を作りたい

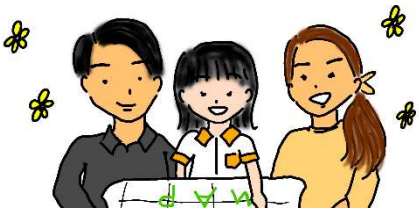
在留資格が関係する

# 7．人を「つなぐ」、人と「つながる」。 バディのまとめ

これまでお話ししてきましたように、バディは人と人がつながるためのツールです。昨今、人と人がつながる事を「めんどくさい」「避けたい」という風潮があるように報じられています。しかし実際は、優しくされたら嬉しいですし、声をかけてもらったら嫌ではないはずです。バディは、決して特別なものではなく、誰もが持っているものだと私は思っています。

## （1）バディの基本の「き」

①まずは相手を意識すること
②最初の一歩はこちらから
　「おはよう」「こんにちは」の　あいさつから
③名前を呼ぼう
④自分のできることでバディをしよう
⑤無理なく続けよう

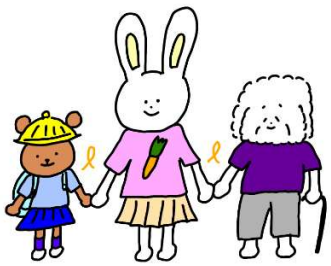


## （2）多種多様な人々から信頼を得るために

① 傍観ではなく、行動する
② 感動を共にする
③ 相手に寄りそう、相手に思いを巡らす
　「私が彼らの立場だったら」
　わがことのように、じぶんごとのように

## （3）バディをするときの気構え心構え

①相手を受け止める
②友好的に友人のように
③時に指導者として
④偏見や差別をしない
⑤自分の気持ちを押し付けない



### (4)3つの側面からバディをしよう

例えば、あなたがバディをしている外国の人が「最近眠れない」と言っているとします。眠れないなら病院に行きましょう、というのもバディのひとつですが、どうしてその人は眠れないのだろう？からだの調子が悪いのだろうか？仕事がうまくいっていないのではないか？家族との関係はどうだろうか？など、相手のことを考えると、今起きている「現象」ではなく、その人を取り巻くものが多角的に見ていきます。「木を見て森を見ず」ではなく、「木を見て、森も山も川もすべて見る」ことがバディと信頼関係を築いていくために大切なことです。

### (5)信頼関係ができるまでのステップ

信頼関係は一足飛びにはいきません。

外国の人たちと信頼関係を作るために、ひとつずつステップを踏んでいくことが、ゆるやかにつながり続けるための大切なポイントです。少しずつ話をしながら、関係構築をしていきましょう。

| ステップ | ステップ1 | ステップ2 | ステップ3 |
|---|---|---|---|
| | はじめての出会い | 関係構築期 | 信頼関係構築 |
| ゆるやかにつながりながら | | | |
| バディさんとのかかわり | ・はじめて出会う<br>・あいさつを交わす<br>・名前を呼ぶ<br>・互いに相手がどんな人かを知る | ・互いに相手がどんな人かをもっと知る<br>・日常の相談（小さな相談）にのる<br>・簡単な助言をする | ・非常時や大きな相談にのる<br>・バディとしてより多くの人とつながる |
| 接し方のこつ | ・相手の目を見て話す<br>・長い時間接しない<br>・深い話は質問しない | ・家族、仕事、住まいなどの話を聞く<br>・会話の時間を延ばしていく | ・相手が望む内容を察する<br>・今の状況を確認する<br>・必要な場所につなぐ |

## (6)ひとりの人の後ろに 10 人の人がいる

私はいつもバディをするときに、目の前の人の後ろにいる人のことも考えるようにしています。目の前の人に真摯に向き合うことが、その人の後ろにいる 10 人の人たちへのアプローチになるからです。外国の人たちは、自分の国のコミュニティの中で生活をしていることが大半です。いいことも、そうでないこともコミュニティの中で解決をしようとします。その結果、大事になってから「HELP！」となる場合もあります。

日常からバディとしてつながっていると、小さい芽のうちに問題を刈り取ることができることがあります。それを目の前にいる人が体感すると、その人の後ろの人が困った時に、その人を通して相談をしてくれることがあります。1 人のバディをすることは、その人の後ろにいる人たちのバディをすることにもなるのです。

ラウラさんは 60 代の日系 2 世。彼女をバディすることは、
彼女の後ろにいる人をバディすることにつながるのです。

# 8．人を「つなげる」バディシステム

## (1)バディシステムとは

バディは人と人が「つながる」ためのツール(道具)ですが、それを使って、人と人を「つなげる」しくみを「バディシステム」といいます。人と人がつながるためのナッジ[4]のひとつです。

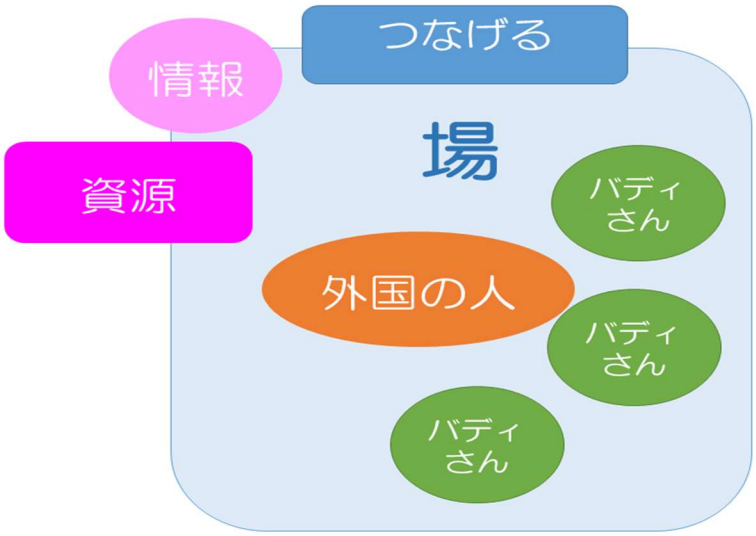
バディシステムの大切な要素は、「場」「人」「資源」「情報」です。

「場」はどこでもいいですが、ひとつ拠点があるとつながりやすくなります。地域の公民館、畑、学校、会社も「場」となります。「情報」「資源」は、地域の特産物や観光名所、お祭りなどのイベントです。その情報を得て、その資源をどう活用するかを考えます。

次に、「場」「情報」「資源」を使って、誰と誰をつなぐかを考えます。

「人」は、地域に住む多種多様な人々です。「場」「情報」「資源」を使って、人と人をどうつなげるかを考えます。多くの外国の人たちは、日本人と仲良くしたいと思っています。地域には外国の人たちと仲良くしたいと思っている日本人がいます。これらの人たちを「場」と「資源」「情報」を使ってつなげるのが「バディリーダー」です。

次項では、バディシステムを使った事例を紹介していきます。




[4] ナッジ(nudge)は、アメリカのシカゴ大学リチャード・セイラー教授が提唱した行動理論。「nudge」は英語で「良い選択をするために、軽くひじ先でつつく、背中を押す」という意味。

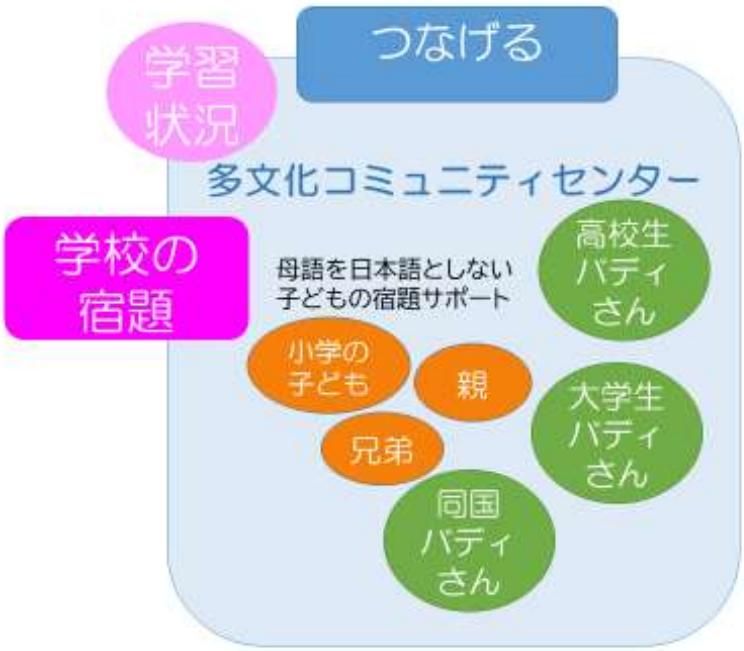
### (2)事例1(学習支援)

ある日センターに訪れた外国籍のママ。疲れて悲しい顔をしています。

「こどもね、しゅくだい、とってもむずかしい。まいにちね、かえってから、おわらない」。一生懸命、日本語で伝えてくれました。お子さんは小学校低学年の A ちゃん。

そこでバディシステムを使って、どうやって母語[5]が日本語でない子どもが安心して宿題ができ、ママも安心できるかを考えました。落ち着いて宿題ができるようになるまで、決まった曜日にサポートができるように場を設定しました。次にどうやって、バディをしていくかを考えました。A ちゃんのバディさんには、高校生のバディさんを繋げてみました。そして、宿題を見守っているママには、60 代のバディさんをつなげました。

週に1～2 回のバディを続けています。A ちゃんは、自分のペースで宿題を取り組んだり、たまに遊びに夢中になってできなかったりを繰り返しています。ママは、バディさんにいろいろな話をするようになり、気持ちが楽になったそうです。定期的に接していて、一番の変化はママの日本語が上手になったこと！そして、高校生バディさんは、彼らの母語で話をしてみたいと言って、宿題サポートをした後に、ママや A ちゃんから母語であるスペイン語を教えてもらったりしています。バディは対等な関係です。関係ができてくると、様々なつながりができていきます。それがバディシステムの魅力とも言えます。

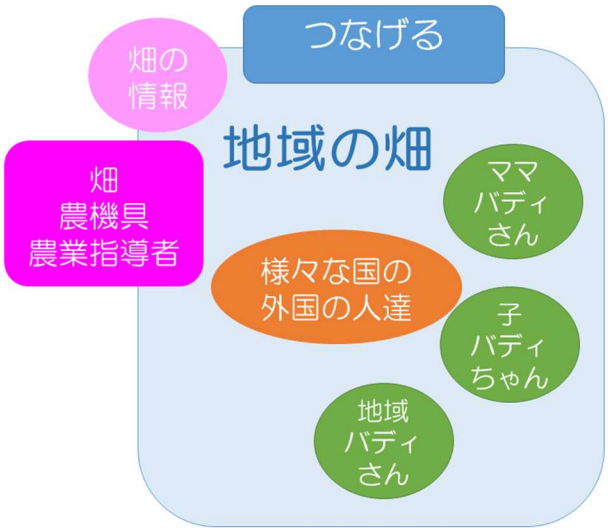



[5] 幼児期に最初に習得される言語

### （3）事例2（農園活動）

地域の農園の片隅に雑草が生い茂る場所がありました。地域の人たちが、そこを開墾して、外国の人たちと一緒に作物を植えたいと相談がありました。同じころ、外国の人たちから、畑で作物を作りたいという相談がありました。

そこで野菜を育ててみたい外国の人たちに声をかけたところ、ベトナム、インドネシア、ブラジル、フィリピン、ナイジェリア、ペルーなど多種多様な人々が集まってきました。畑の指導には、地域で長年野菜を作っているご夫婦。種まきの時期、肥料の蒔き方、消毒の仕方、土の作り方など教えてくれます。トマトが採れる夏には、真っ赤に熟れたトマトを好む国の人、まだ青いトマトがいいという国の人がいました。同じ野菜も呼び方が違います。みんなで教え合います。パクチーなど、日本人にはまだまだ馴染みのない野菜もたくさん育ちました。それぞれの国の食べ方を教えあったり、時にはおすそ分けをしたり。畑はみんなの居場所のひとつとなりました。



### (4)あなたの場で

では、実際にバディシステムを使って、「あなたの場」で人と人をつなげてみましょう。

①～⑤について、下の図に書き込んで、バディシステムをイメージしてみましょう。

① あなたの周りで今ある課題はなんですか？

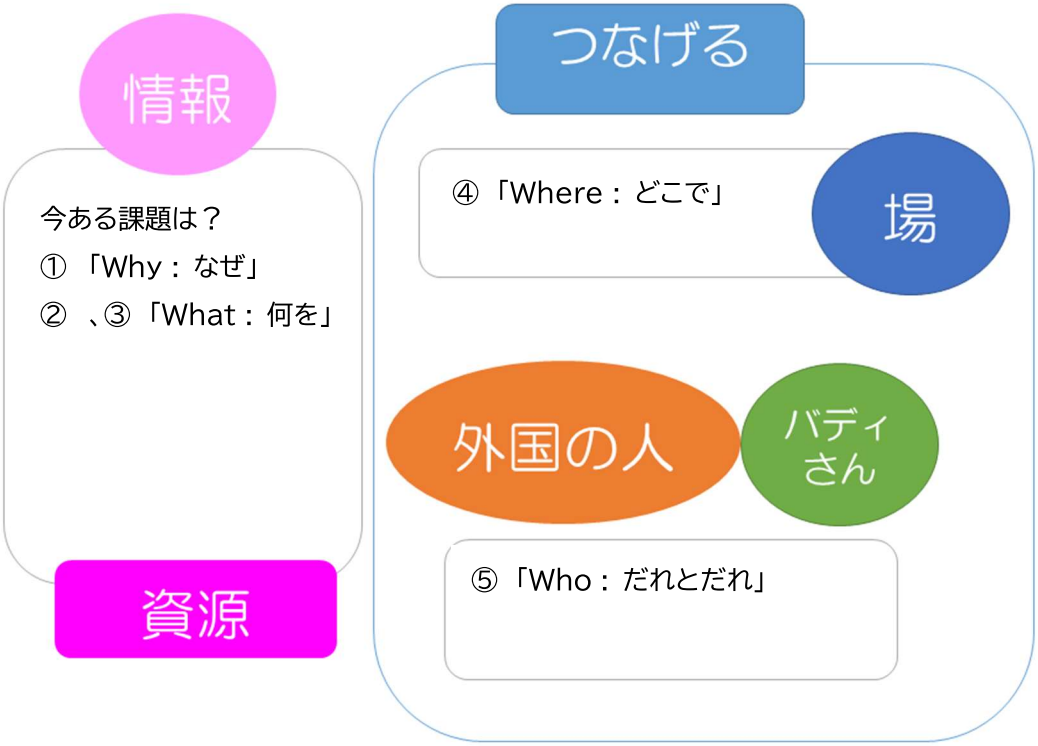
② あなたは何をしてみたいですか？

③ どんな資源がありますか？

④ どんな場所が使えそうですか？そこはどんな場所ですか？

⑤ そこの場でだれとだれをつなぎますか

どう情報を発信しますか




## おわりに

「今日から私もバディさん　入門編」を最後まで読んでいただきありがとうございます。本冊子は「バディ」と「バディシステム」について書きました。本書は入門編ですので、バディシステムについてはほんの一部のご紹介に留まってしまいましたが、みなさん方が自分の「場」で自分たちのバディの輪を広げていただくことを願っています。バディは特別なものではなく、誰もが持っているこころです。たくさんの方と「バディ」を通じてつながっていけることを願っています。

最後に地域で活躍してくれているバディさんや外国の方の声を紹介します。バディさんのインタビューはこちらから聞くことができます。

⇒https://www.youtube.com/watch?v=6kYvBdzSPI0

## (1)バディさんたちの声

**●「私が助けてあげられる人がいる！」**

F さんは、17 歳の高校生。インターネットでバディの活動を見て、参加してくれました。

彼女は「心配だったのは、私が高校生で若いから、何もできないと思っていました。でもここにいれば、だれかとかかわれて、私がいる意味があるから。私自身が助けられています。楽しいが一番強いです。」

**●「私にもできることがある」**

C さん(70 代女性)は、毎週多文化共生コミュニティセンターに来て、外国の人たちとお話しをしたり、日本語学習のサポートをするバディをしてくれています。外国の人たちとお話をすることがとても楽しく「この歳になっても私のできることがあることがうれしい」と言ってくれています。

**●「僕たちは多文化を学び、外国の人たちは日本人とつながる場」**

M さん(70 代男性)は、技能実習生のバディを始めたころから、ずっとバディをしてくれています。今では、地域の農園で、多種多様な地域の人たちに野菜づくりを教えてくれています。畑では、様々な国の野菜をみんなで植えて収穫した野菜を食べます。M さんは今ではパクチーなどの独特の香りのする野菜も食べられるようになったそうです。「外国の人達とのつながりは、多文化を学ぶ機会となっている。外国の人達は畑などの場を通して、日本人とつながる場となる。居場所のひとつだよ」と言ってくれています。

## (2)バディを受けた外国の人たちの声

**●「顔なじみだから、日本語を話せる」**

D さんは、ベトナムから 6 年前に日本に来ました。日本語は片言話せますが、日本人と交流する場面は少なかったといいます。

「みんな一緒に作業をしながら話します。日本人と話すのは難しいです。緊張するから、あんまり話さなかった。畑では毎回話すから、楽しいです」

**●「積極的になりました」**

ブラジルから来た日系 2 世の M さん。日本人と、なかなか話ができなかったそうです。

「バディを受けてから100%変わりました。そして私にもできることがあるって思って。今は、私もいろんな人を助けたいと思っています。」

**●「日本の暮らしは慣れるまで時間がかかる」**

アルゼンチンから来た日系 2 世の M さん。日本での生活は 30 年になります。日本人だけではなく、いろいろな国の人とつながることが大切といいます。

「いろんな人がいるから、考え方が広がります。日本の暮らしは慣れるまで時間がかかります。すぐにできない。1 年 1 年ひとつひとつ重ねて今の生活。昔の自分を思い出して、みんなを助けてあげたいです。」

MEMO

MEMO

MEMO

この冊子のイラストについて

この冊子で使っているイラストは、小学生、高校生、大学生、その他、日本語を勉強している外国籍のバディさん(7～20歳)に描いてもらいました。一貫性のないイラストのようですが、それぞれが思い描く、バディのイメージで描いてもらったためです。このように若い世代にも、バディの本質(こころ)が伝わっていることをみなさまにもお伝えしようと思い採用しました。

「JICA は外国人材の受入拡大に伴う国内の様々な課題の解決に、開発途上国での知見を活かし多文化共生の推進に取り組んでいます。
(公社)トレイディングケアは高浜市で国籍、年代を超えた双方向の関係作りに取組み、地域社会の活性化に大きな成果をあげています。
本書をきっかけに、一人でも多くの方が、外国人と日本人がともに相手を理解、尊重し、助け合える楽しい街作りを目指し、バディシステムを実践いただければ幸いです。」

JICA 中部 市民参加協力課長　酒本 和彦

筆 者 新美 純子

1993 年より看護師。2008 年より看護教員。2012 年より日本在住のインドネシア人看護師の研究開始。
2013 年に名古屋大学修士修了。2015 年より日本の医療・福祉現場の外国人人材との共生に関する講師。
2016 年一般社団法人トレイディングケア設立。2018 年公益社団法人トレイディングケア代表理事。

公益社団法人トレイディングケアでは、医療・福祉現場で活躍する介護技能実習生の受け入れ、育成、監理を行うとともに、日本で働き生活する外国の人々と地域の人々が、共生していくサポート事業を実施している。

2018 年　高浜市でバディシステム開始。ベルギーのメヘレン市で移民を受け入れる取り組みからヒントを得たバディシステム。バディ(BUDDY)を直訳すると相棒・仲間のことで、新しく来た外国住民と地域の人がバディシップを組むところから始めた。
2019 年　外国人技能実習生の監理団体として介護技能実習生受入開始。当法人で受け入れた外国人技能実習生の方達と地域で応募のあったバディさんが互いの空いた時間に交流を深めている。
2020 年　愛知県高浜市と多文化共生事業で協定を結び、外国人サポート事業実施中。
2021 年　愛知県高浜市多文化共生コミュニティセンターの業務委託を受け、センター長に就任。

地域で暮らす外国の人の相棒になろう！

# 今日から私もバディさん
# 入門編

2022 年 4 月 1 日　発行
著　者　公益社団法人トレイディングケア
　　代表理事　新美 純子
内容問い合せ先
　　公益社団法人トレイディングケア
　　愛知県高浜市青木町 4 丁目 5 番地26　2F
　　0566-57-7700

発行　独立行政法人国際協力機構　中部センター